

家庭科教育

家庭科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 普通科女子は4単位必履修

- (1) 家庭生活と家庭経営 (2) 計画的な経済生活 (3) 能率的な家庭生活 (4) 食生活の経営 (5) 衣生活の経営 (6) 住生活の経営 (7) 乳幼児の保育 (8) 家庭生活の改善向上

昭和45年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 すべての女子は4単位必履修

- (1) 家族と家庭経営 (2) 家族の生活時間と労力 (3) 家庭の経済生活 (4) 食生活の経営 (5) 衣生活の経営 (6) 住生活の経営 (7) 乳幼児の保育

昭和53年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 すべての女子は4単位必履修

- (1) 家庭生活の設計・家族 (2) 衣生活の設計・被服製作 (3) 食生活の設計・調理 (4) 住生活の設計・住居の管理 (5) 母性の健康・乳幼児の保育 (6) ホームプロジェクト・学校家庭クラブ

平成元年改訂（告示）→「家庭一般」「生活技術」「生活一般」から1科目4単位を全員必履修

- 「家庭一般」内容：(1) 家族と家庭生活 (2) 家庭経済と消費 (3) 衣生活の設計と被服製作 (4) 食生活の設計と調理 (5) 住生活の設計と住居の管理 (6) 乳幼児の保育と親の役割 (7) ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ活動

平成11年改訂（告示）→「家庭基礎」2単位「家庭総合」「生活技術」4単位から1科目を全員必履修

- 「家庭基礎」内容：(1) 人の一生と家族・福祉 (2) 家族の生活と健康 (3) 消費生活と環境 (4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- 「家庭総合」内容：(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもの発達と保育・福祉 (3) 高齢者の生活と福祉 (4) 生活の科学と文化 (5) 消費生活と資源・環境 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

平成21年改訂（告示）→「家庭基礎」2単位「家庭総合」「生活デザイン」4単位から1科目を全員必履修

- 「家庭基礎」内容：(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 生活の自立及び消費と環境 (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- 「家庭総合」内容：(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 (3) 生活における経済の計画と消費 (4) 生活の科学と環境 (5) 生涯の生活設計 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- 「生活デザイン」内容：(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 (3) 食生活の設計と創造 (4) 衣生活の設計と創造 (5) 住生活の設計と創造 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

家庭科教育に関する現状と課題について①

※文部科学省「平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」より

家庭科の必修科目の開設状況(平成25年度入学生の教育課程)

	普通科				専門学科				総合学科
	1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
家庭基礎	53.5%	19.9%	2.3%	6.3%	29.8%	22.6%	11.0%	1.4%	74.4%
家庭総合	17.4%	23.6%	6.7%	1.0%	14.7%	30.0%	20.7%	0.6%	32.7%
生活デザイン	0.4%	0.6%	0.6%	0.3%	1.1%	1.9%	1.5%	0.2%	2.4%

- 「家庭基礎」(2単位)は、普通科では5割以上が1年次に、専門学科では半数程度が1・2年次に設定。
- 「家庭総合」(4単位)は、普通科では1・2年次に開設されているが、専門学科では2・3年次に開設されている。
- 「生活デザイン」(4単位)の開設割合は低い。



教育課程編成上、家庭基礎(2単位)の開設率が高くなっている

<参考>

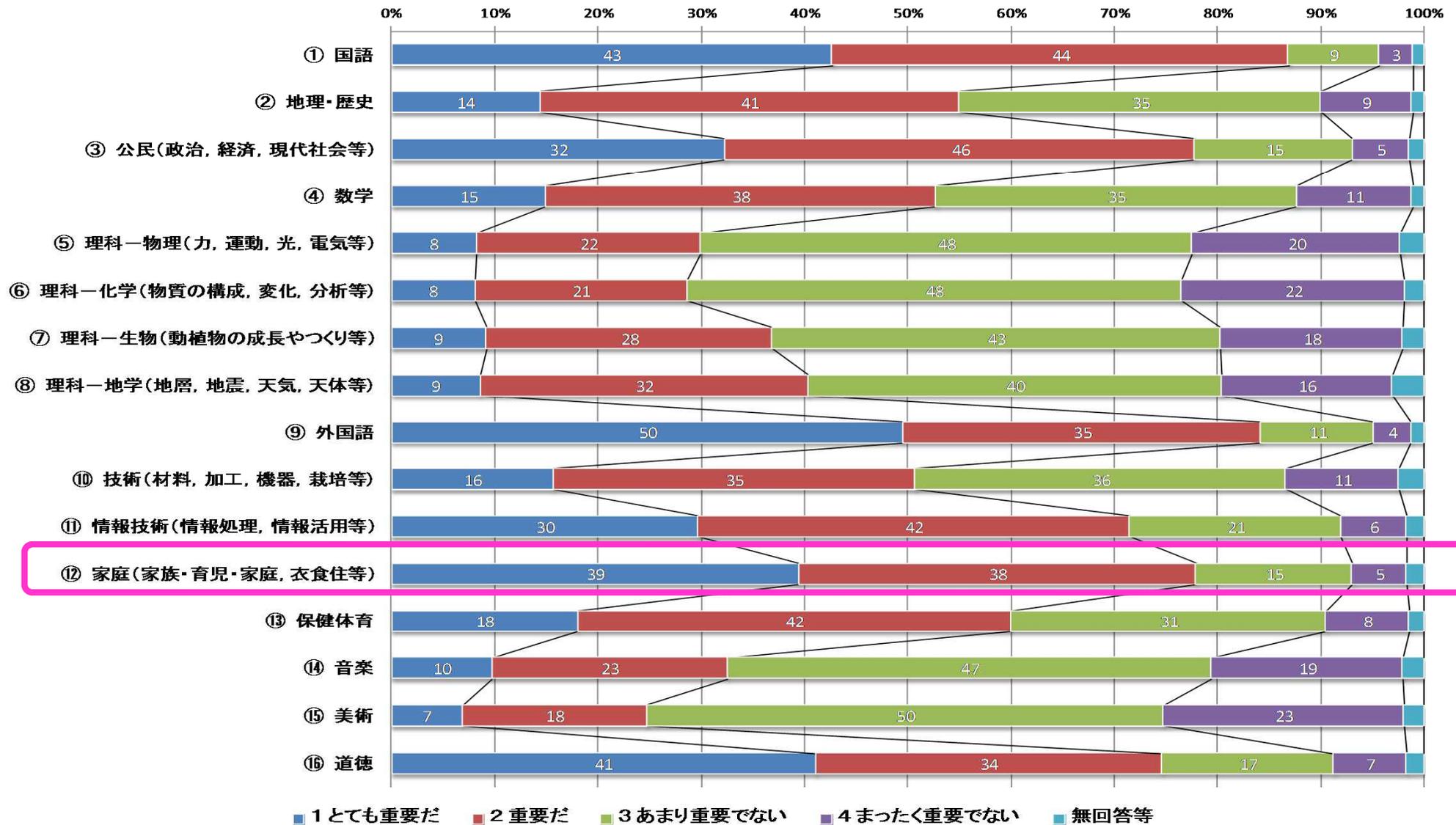
【H27年度使用 高等学校用家庭科教科用図書需要数】

家庭基礎:962,196冊(76.6%) 家庭総合:285,269冊(22.7%) 生活デザイン:8,796冊(0.7%)

※この需要数は平成26年9月までに教育委員会から報告された生徒用及び教師用の必要見込み冊数であり、当該科目の履修者数とは一致しない。
※平成26年5月1日時点 高等学校在学者数 3,334,019人

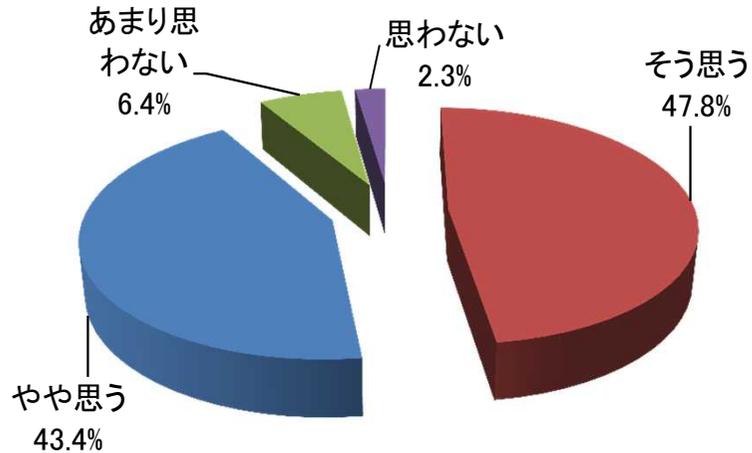
教科の重要性の意識(高3 全体)

I. あなたが将来生きていく上で重要な学習—高校3年生(全国値)



家庭科教育に関する現状と課題について③

高等学校 家庭科を学んでよかったか



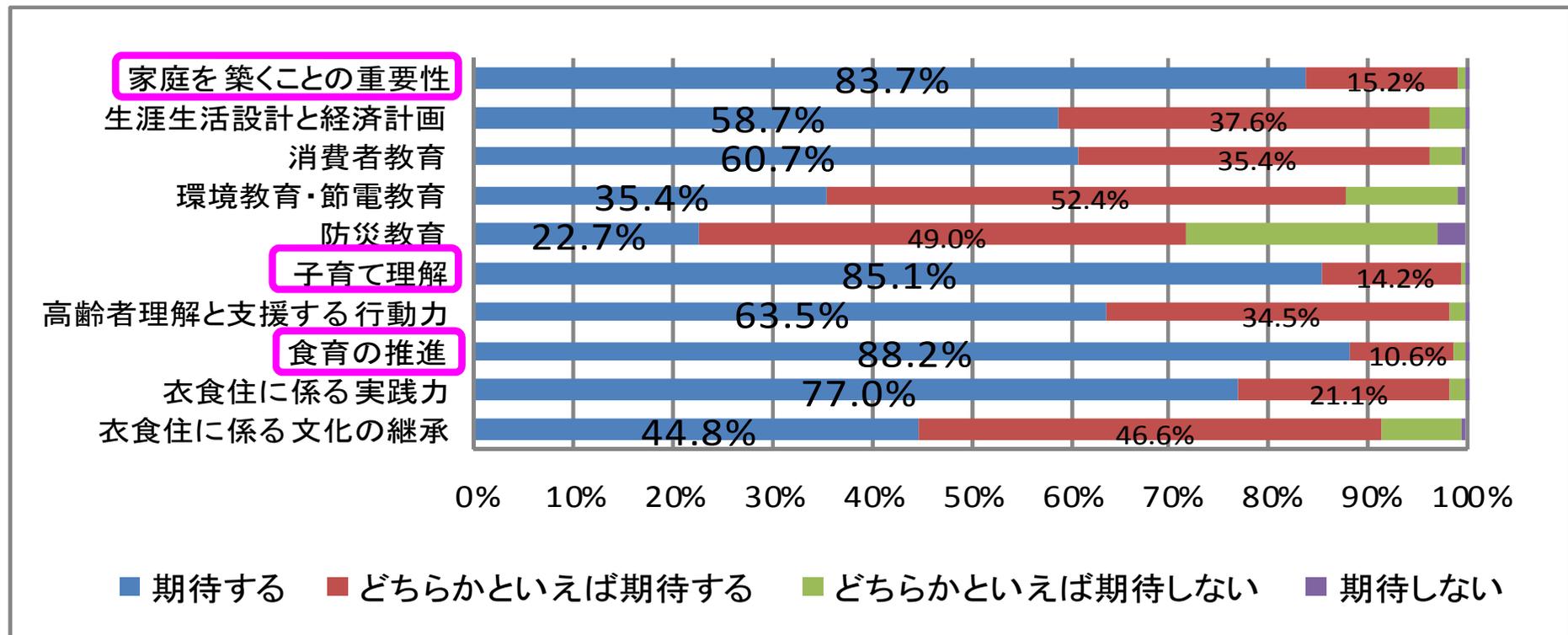
調査対象: 各地区の国公立高等学校45校の生徒1,918名
 調査方法: 家庭科教員立ち会いのもと自記入式のアンケート調査
 有効回答数: 1,863名(男729名, 女1,111名, 不明23名)

出所: 2007年6月

日本家庭科教育学会「高等学校家庭科男女必修の成果と課題」

家庭科教育に関する期待度

(平成24年11月, 全国の高等学校長1,207名に調査, 908名から回答)



高等学校における家庭や地域と連携した家庭科の授業

ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動(家庭科版問題解決的な学習)

- ◆家庭科の授業で習得した知識と技術を、家庭生活や学校生活や地域の生活で生かすことが出来る問題解決能力と実践的態度の育成を重視。
- ◆生徒が主体的に家庭や地域に発信する学習の展開



第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

平成26年7月31日(木)8月1日(金)山口市民会館

大会スローガン

「西の京やまぐちから全国へ みんなで架けよう 希望のアーチ」

◆昭和28年から毎夏各地から優れた実践研究の成果を発表し情報交換する全国規模の大会
平成27年度は北海道開催

◆「ホームプロジェクト」発表題目例

ブロック名	学校名	題目
近畿	五条市立奈良県立五条高等学校賀名生分校	我が家の約束 ～何でも食べて毎日元気～
中国・四国	高知県立安芸高等学校	我が家の防災対策、どうなっちゃう?!～防災改善計画～
九州	沖縄県立美里高等学校	大好きな てるばあちゃんへ ～家族で認知症介護を考える～
北海道	北海道札幌北高等学校	父と家族の健康単身赴任(忍者)修行!!
東北	福島県立喜多方東高等学校	希望につながるリハビリを～脳梗塞の回復・改善を目指して～
関東	埼玉県立鴻巣女子高等学校	魚魚と驚き、こんなにキレイに食べちゃった～ほねほね克服大作戦!～

◆「学校家庭クラブ活動」発表題目例

ブロック名	学校名	題目
北海道	北海道名寄産業高等学校	高齢者ソフト食に関する研究 ～食べる楽しみをいつまでも～
東北	岩手県立一関第一高等学校	ともに生きる社会をめざして ～震災復興への取り組み・継続研究
関東	群馬県立前橋西高等学校	我が郷土 ～絹に親しみ、着物リメイク～
北陸・中部	富山県立氷見高等学校	「ながらも」でHAPPY! ～地域に藻食を発信～
近畿	和歌山県立南部高等学校	みんなで参加! プチボランティア ～4班に分かれて 自分を磨こう!～
中国・四国	山口県立山口農業高等学校	山口外郎でつながる輪 ～伝統和菓子で地域に笑顔を～
九州	熊本県立熊本高等学校	守れ 食生活!! ～くまヘルと繋がるからだと心～

乳幼児や高齢者との交流

家庭科の特徴 実践的・体験学習な学習を重視

◆乳幼児との交流・・・子供を育てる視点から、子供を生み育てることの意義や子供と関わることの重要性を学ぶ。



乳児親子交流会

乳児親子交流会 生徒の感想

泣いている赤ちゃんをあやしながら質問に答えてくれるお母さんを見てすごいなあと思った。また、実際に抱いてみて、結構重くて少し長く抱いていると手が疲れるほどだった。この二つのことから、子供を育てていくことは喜びもたくさんあるけれど、大変なこともたくさんあって責任がともあることだと、今までで、一番実感した。



オムツ替えに挑戦



母子手帳やエコ写真を見て
小さな命を実感

◆高齢者との交流・・・地域の方を講師として招聘したり、施設訪問をしたりして高齢者に対する理解を深める。



郷土料理の講習会



施設訪問



高齢者疑似体験



工業高校生が車いすを修繕

家庭科目の今後の在り方について（検討素案）

△
成果
▽

- ・女子のみ履修であった高等学校の家庭科は、平成6年度から男女必履修となり21年が経過した。「家庭科は実生活に役立つ」、「家庭科を学習してよかった」と、生徒は肯定的に捉えている。
- ・「将来生きていくために重要な科目である。」という意識も高い。

△
課題
▽

- ・生活体験が減少している生徒に対して、実験や実習等を取り入れ、現実の生活の中で活用するための実践力や応用力を身に付ける必要がある。
- ・生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践するといった問題解決的な学習が効果的に行われていない。

[学習方法や資質・能力に関する課題]

- ・生活者として自立し、社会に参画するために必要な知識や技術を科学的な根拠に基づいて身に付ける必要がある
- ・問題解決的な学習において、「何を問題とし」「どう解決するのか」について、生徒の興味・関心を踏まえた学習になっていない。

[学習内容の課題]

- ・将来を見通した生活設計に必要な生活の課題(就職・結婚、各ライフステージで想定される生活上のリスクへの対応方法等)についての内容を充実する必要がある。

△
改善の視点(案)
▽

家庭科で育成する資質・能力の育成

- 生活を科学的に理解し、生涯を通して安心・安全・健康的な生活を営む実践力を育成する
- 生活の課題を解決するために、様々な年代の人と協働し、コミュニケーションして主体的に参画する力

◆少子高齢社会に対応する力
(子育て理解、高齢者の理解、生涯生活設計能力)

◆生活課題を解決するために必要な社会参画力、コミュニケーション能力(地域コミュニティを構築)

◆持続可能な社会を構築する力
(消費・環境に配慮したライフスタイルの確立)

◆グローバル化に対応する力
(衣食住の生活文化の継承・発信)

△
検討の方向性(案)
▽

共通必履修科目の在り方

- 社会の変化への対応
 - ・少子高齢社会を踏まえ、乳幼児や高齢者を支えるために必要な知識や技術、コミュニケーション能力を育成
- 生涯を通して、自他の生命を守る衣食住生活の実践力を育成、食育の充実(例 生活習慣病を予防するために生涯を見通して食生活を営む力、災害時等の生活上のリスクに対応した衣食住の知識や技術等)

- 生活者の視点を踏まえた消費者教育の充実(生活情報を収集し、適切に意思決定する力を育成) ※公民科における新科目の在り方と連携
- 地域との交流等を通して社会に参画する力を育成
- 衣食住の生活文化の継承(例 和食、和装、生活を豊かにするもてなし等)

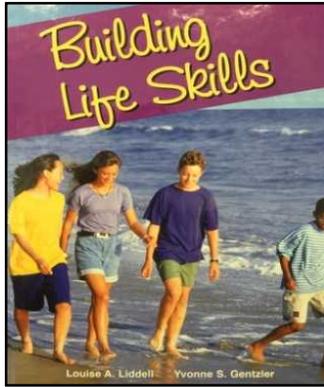
アメリカの家庭科教科書と「Skills (スキル)」と「Careers (キャリア)」

【家庭科教科書のタイトル】

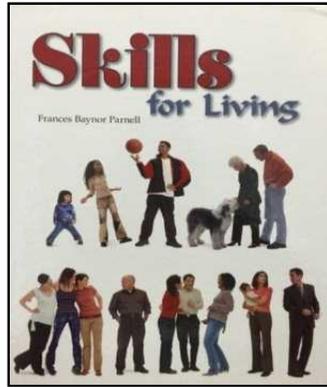
Building Life Skills
Skills for Living
Skills for Life

家庭科の学習内容は生活スキル、
生きるためのスキルにつながる

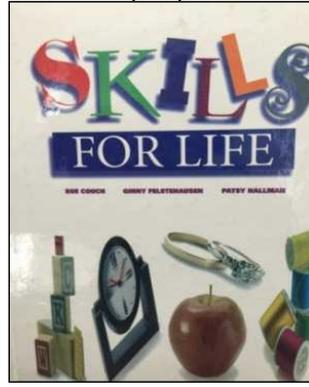
Grade Level: 6-9



Grade Level: 8-12



Grade Level: (7-9)



【家庭科教科書の構成】

- 最終章に、家庭科に関するキャリアの紹介
- 領域(家族、衣食住など)のまとめごとに、家庭科に関するキャリアの紹介

家庭科の学習内容は将来のキャリアに
つながる

【Skills for Life(全40章)の構成】

1部 ひとの発達

1章: たった一人のあなた 2章: 自己概念 3章: 意思決定/問題解決

2部 満足いく生活のためのマネージメント

4章: マネージメント 5章: マネージメントの資源 6章: 消費者としてのスキル (中略)

8部 あなたを取り巻く環境

34章: あなたの個人空間 35章: 学校や地域を大切に、
36章: 安全で秩序ある環境 37章: 環境問題の今とこれから

9部 キャリア

38章: 仕事の世界, 39章: 雇い主が必要とするスキル, 40章: キャリアの探検

家庭科に関するキャリアを選ぶ

家庭科の領域に関連する仕事にはたくさんの魅力的なものがある。例えば、

- 子どもの発達や家族関係に関する仕事
- 栄養・健康・食物のマネージメントに関する仕事
- 家計や資源マネージメントに関する仕事
- 衣料に関する仕事
- 住宅やインテリアデザインに関する仕事
- 教育やコミュニケーションに関する仕事

これらの仕事は家族員が充実した生活を送るためにある。39章で学んだ基本的な技術だけでなく、専門的な技術も求められる。働くことが初めてという人向けの仕事もたくさんある。保育士助手、レジ、販売員など。ある程度専門的な知識や訓練が必要とされる仕事もある。高校卒業後に教育をうければ、保育所や幼稚園の助手、デザイナー助手、仕立て職人、パン職人など。

大学を卒業して学士になれば、さらに多様な仕事に就くことができる。子どもの発達について学べば幼稚園教諭、児童福祉相談員、保育所の所長になることだってできる。食物や栄養学学科を卒業し、資格試験に合格すれば、栄養士の資格を取得することができる。被服について学べば、アパレル関係の会社や調査会社で働くことができる。住居学、インテリア、環境デザインを専攻すれば、関連会社で働いたり、住宅コンサルタントとして働くことができる。(「40章キャリアの探検」の囲みを要約)

【Building Life Skills (全47章)の構成】

1部 あなた自身

1章: 成長と変化 2章: パーソナリティ

3章: 挑戦すること

4章: 他者とのコミュニケーション

5章: 家族, 6章: 友人

(中略)

8部 高みへ

43章: グループで働く

44章: 仕事のスキル

45章: キャリア決定

46章: 家庭科に関するキャリア

47章: 家庭と仕事のバランス

Careers in Family and Consumer Sciences							
	Child Care and Human Development	Family Counseling	Management and Consumerism	Foods, Nutrition, and Wellness	Clothing, Textiles, and Fashion	Housing and Interior Design	Education
Entry-Level Positions	Babysitter Parent's helper Nursery school aide Child care center aide Playground assistant Camp counselor's aide	Homemaker's aide Caseworker's aide Retirement center aide Camp counselor	Consumer affairs aide Consumer survey assistant Office worker Consumer product tester assistant	Busperson Dishwasher Cook's helper Short order cook Stock clerk Server Host or hostess Dietitian's helper Caterer's helper	Stock clerk Sales clerk Cashier Alterationist's assistant Laundry attendant Display assistant Clothing repair specialist Fabric salesperson	Upholsterer's helper Designer's aide Home lighting aide Home furnishings salesperson	Babysitter Nursery school assistant Youth counselor
Positions That Require More Training	Playground director Teacher's aide School food service worker Scout leader Recreational leader	Help-line counselor Counseling paraprofessional Retirement center staff worker Playground director Youth services worker Homemaker services director	Consumer service representative Consumer product specialist assistant Consumer survey assistant Credit bureau research clerk Loan officer assistant Bank teller Collection agent	Food service manager Restaurant manager Food purchaser Sanitation supervisor Quality control supervisor Pastry and dessert chef Chef or chief cook Baker Restaurant owner	Sewing machine operator Presser/Finisher Buyer Display assistant Fashion photographer Fashion writer Store manager Dry cleaner Alterationist Tailor/Reweaver	Drapery/slipcover maker Designer's assistant Upholstery and carpet cleaner Appliance/furnishings salesperson Home lighting designer Real estate agent	Teacher's aide 4-H leader
Positions That Require a College Degree	Nursery school teacher Designer of children's clothing, furniture, or toys Writer of children's books, stories, or games Child care center or nursery school administrator Child welfare worker	Social worker Crisis center counselor Family budget counselor Family/Marriage therapist School counselor Family health counselor	Retail credit manager Money investment advisor Consumer survey specialist Consumer affairs director Loan officer Consumer product specialist Consumer money management director Financial planners	Dietitian Executive chef Sales manager Marketing executive Advertising manager Caterer Editor or writer Food technologist Nutritionist Product developer Food stylist Demonstrator	Fashion designer Textile designer Home furnishings specialist Market researcher Display artist Researcher or tester Clothing consultant Merchandise manager	Textile designer Kitchen designer Home furnishings designer Home furnishings editor Home furnishings buyer Interior designer Merchandising specialist Home service director Public housing consultant Home planning specialist	Junior high family and consumer sciences teacher High school family and consumer sciences teacher Family and consumer sciences professor Curriculum specialist Family and consumer sciences extension agent Adult educator

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間設置の経緯

* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究。

○平成8年7月:中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第一次答申)

○平成10年7月:教育課程審議会答申

総合的な学習の時間の創設の提言

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開できるような時間を確保
- ・社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保

○平成10年12月:小中学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、14年4月より全面実施)

平成11年3月:高等学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、15年4月年次進行で実施)

総合的な学習の時間の創設

○平成15年12月:学習指導要領の一部改正(公布日施行、高校は15年4月入学生から適用)

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等を相互に関連付けること
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用 など

○平成20年1月:中央教育審議会答申

- ・総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認。知識基盤社会において必要な資質・能力の育成に重要な役割を果たすという意義を踏まえ、時間数を縮減しながらも、新たに章立てをするなど位置付けの明確化、横断的・総合的な学習や探究的な学習の明確化を提言

○平成20年3月:小中学校学習指導要領告示(平成21年4月～先行実施)

平成21年3月:高等学校学習指導要領告示(平成22年4月～先行実施)

総合的な学習の時間の目標等

目標・内容の設定及び時数、単位数

■総合的な学習の時間の目標

「**横断的・総合的な学習**や**探究的な学習**を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、**協同的**に取り組む態度を育て、自己の生き方（高等学校では「在り方生き方」）を考えることができるようにする。」

第2 各学校において定める目標及び内容

1 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

2 内容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

■時数、単位数

- ・小学校3～6年生：各70時間
- ・中学校1年生：50時間、2・3年生：各70時間
- ・高等学校：3～6単位

各学校における内容の設定

■内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来にかかわる課題などのことであり、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。

各学校における資質や能力及び態度の設定

■育てようとする資質や能力及び態度

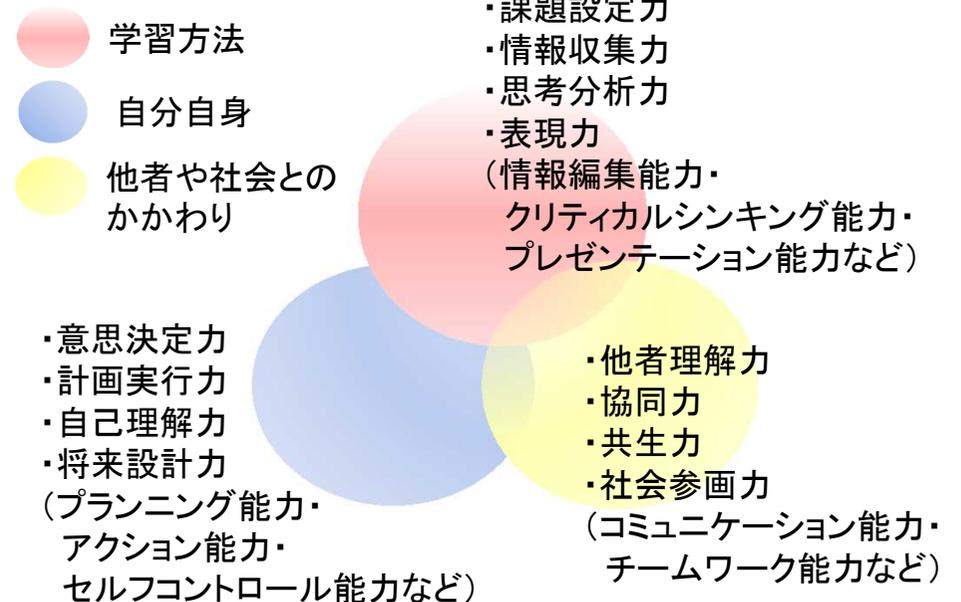
各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の2つにより、総合的な学習の時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示する。

■例えば、以下の三つの視点が考えられる

- ・学習方法に関すること
- ・自分自身に関すること
- ・他者や社会とのかかわりに関すること

(* 上記3つの視点は、OECDのキー・コンピテンシーにも符合する)

実社会で活用できる能力(例)



総合的な学習の時間における 探究のプロセス

読解のプロセス(PISA)

○情報へのアクセス・取り出し

○統合・解釈

○熟考・評価

探究のプロセス(総合的な 学習の時間)

①課題の設定: 体験的な活動等を通じて課題意識をもつ

②情報の収集: 必要な情報を取り出したり、収集したりする

③整理・分析: 収集し、取り出した情報を整理、分析する

④まとめ・表現: 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

問題解決のプロセス (PISA)

○探究・理解

○表現・定式化

○計画・実行

○観察・熟考

総合的な学習の時間の実施状況

学年別の実施状況

(平成25年度入学者)

		全年次 で実施	1・2年 次で実 施	2・3年 次で実 施	1・3年 次で実 施	1年次 のみで 実施	2年次 のみで 実施	3年次 のみで 実施	小計	特例等
全日制	普通科	83.9%	4.6%	5.2%	3.4%	0.2%	0.0%	0.7%	98.0%	2.0%
	専門学科	14.2%	1.3%	1.5%	0.9%	0.2%	0.2%	2.2%	20.4%	79.6%
	総合学科	18.5%	0.7%	74.7%	2.0%	0.0%	0.7%	3.0%	99.7%	0.3%

注1 全日制課程における総合的な学習の時間の実施状況について、学科ごとの割合を示している。

注2 平成25年度入学者に適用される3年間の教育課程について記入している。

注3 研究開発学校やスーパーサイエンスハイスクールなど教育課程の特例を認められており、総合的な学習の時間を実施していない場合及び専門学科において課題研究等で全部代替している場合は、「特例等」に計上している。
(2)についても同様。

総合的な学習の時間の単位数の設定状況

(平成25年度入学者)

		2単位	3単位	4単位	5単位	6単位 以上	小計	特例等
全日制	普通科	4.4%	91.2%	1.1%	0.4%	0.8%	98.0%	2.0%
	専門学科	1.3%	18.2%	0.8%	0.1%	0.1%	20.4%	79.6%
	総合学科	2.7%	88.9%	6.7%	1.3%	0.0%	99.7%	0.3%

学習指導要領上の規定
標準単位数 **3～6**
(特に必要がある場合には2単位と
することも可)

総合的な学習の時間の実施状況

学年別の実施内容

(平成25年度入学者)

(複数回答)

学年		学習内容	国際理解	情報	環境	福祉・健康	伝統と文化	防災	まちづくり	キャリア	その他
全日制	普通科	1年	28.0%	24.2%	32.1%	36.5%	29.8%	20.1%	11.2%	77.8%	17.4%
		2年	32.3%	23.3%	30.6%	31.0%	36.1%	17.8%	8.7%	80.7%	17.0%
		3年	25.1%	22.0%	24.8%	29.3%	22.8%	16.8%	6.4%	80.2%	15.2%
		※実施 学科数	44.2%	34.8%	43.9%	46.7%	48.3%	23.8%	14.9%	90.0%	24.1%
	専門学科	1年	24.2%	19.7%	21.9%	24.7%	18.9%	12.8%	6.9%	66.6%	17.1%
		2年	26.6%	19.1%	21.5%	24.8%	23.5%	12.9%	6.9%	67.8%	17.3%
		3年	20.5%	19.7%	19.6%	25.1%	15.3%	11.9%	8.2%	66.4%	22.0%
		※実施 学科数	36.1%	30.7%	33.1%	35.0%	32.2%	17.3%	12.0%	81.5%	32.0%
	総合学科	1年	5.1%	4.4%	7.1%	9.1%	5.7%	5.1%	1.3%	14.5%	7.7%
		2年	29.4%	26.0%	29.4%	30.7%	37.5%	15.9%	12.2%	81.4%	20.9%
		3年	38.5%	42.6%	36.8%	46.3%	38.9%	18.2%	17.6%	66.9%	33.4%
		※実施 学科数	46.6%	47.6%	46.6%	55.1%	52.0%	22.3%	21.3%	85.8%	39.2%

総合的な学習の時間の取り組み

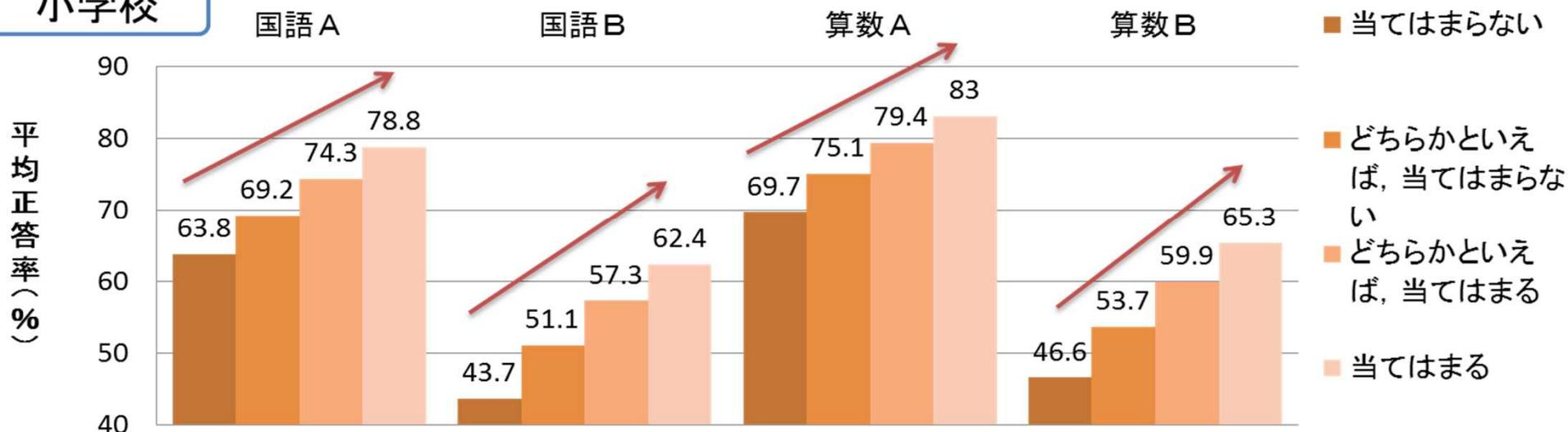
学校名	取組例
A高等学校	<p>総合的な学習の時間の中でオリジナル商品の開発を行っている。毎年11月にA市商工部と協力し、店舗を構え開発した商品を販売。毎年3,000人あまりが来場。一昨年には、他校と協力し、コンビニ4社とパン製造企業に新たな商品を提案。連携先のコンビニで2週間限定で販売し、東北地区の販売数ナンバー1の商品となった。</p>
B中等教育学校	<p>6年間の中で、確かな学力の定着とともに、地域の魅力に気付かせ、地域の抱えている課題を考えさせたいと、教育目標に「〇〇の歴史と文化に誇りをもち、豊かな人間性と知性を身につけ、世界的視野で活躍できる人材の育成」を掲げる。 「〇〇学」(総合的な学習の時間を活用)として地域に出かけていき、地域の課題を探しだし、その解決に向けた活動を生徒自身が考え行っている。</p>
C高等学校	<p>C市や社会に貢献できる人材の輩出を目指し、総合的な学習の時間を構成。2年次には市役所から正式に辞令を受け高校生職員として、地域の課題について考え、その解決策を検討して市に提案している。市役所担当者も高校生の提案を受け入れる場面もあり、高校生は地域の一員としての自覚を確かにしている。</p>
D高等学校	<p>地域が学校運営に参画するコミュニティ・スクールに指定。「自律創造型地域課題解決学習」(総合的な学習の時間を活用)として、地域から示された課題の解決策を地域とともに案出し、実際に実践。E町の特産品の開発、観光マップの作成、イベントの開催など、地域資源を生かしたアイデアが生まれ、高校が地域の活性化の拠点となっている。</p>

全国学力・学習状況調査の結果から

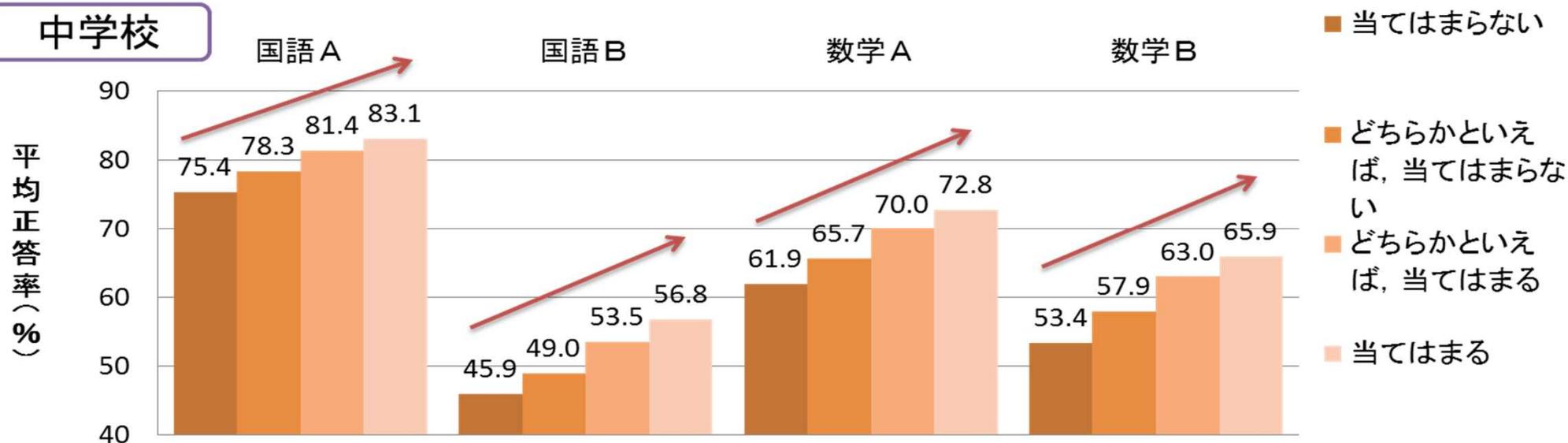
総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる児童・生徒ほど教科の平均正答率が高い。

児童(生徒)質問紙(40):「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

小学校



中学校



総合的な学習の時間に関する認識

- 半数以上の保護者は、総合的な学習の時間を削減に否定的。
総合的な学習の時間を削減すべきと考える保護者の数は5年間で半減。
- 「受験に役立つ学力」を教育に期待する保護者よりも、
「課題を発見する力」「物事を多面的に考える力」に期待する保護者の割合が高い。

■学校教育に対する保護者の意識調査

(朝日新聞・ベネッセ教育研究開発センター、2013.3. 28)

Q「総合的な学習の時間の削減」(平成20年調査→平成24年調査)

- ・「削減に賛成」「どちらかといえば賛成」: **48.0%**→23.8%
- ・「削減に反対」「どちらかといえば反対」: 36.8%→**51.8%**

Q「どのような学力を期待するか」

- ・課題を発見する力: 86.2%
- ・論理的に考える力: 84.1%
- ・物事を多面的に考える力: 87.9%
- ・主体的に行動する力: 88.8%
- ・受験に役立つ学力: 67.4%

日本生活科・総合的学習教育学会調査結果から①小学校

■ **調査目的** 総合的な学習の時間による学習を通して育った児童の学力を全国的な調査によって把握し、分析することで、その教育的効果を明らかにする。

■ **調査時期** 平成26年2月～3月

■ **調査対象と回答数** 学校数38校、児童数2571名、教員数96名

全国5地域(東北、関東、中部、中国、九州の5市)の学校から、総合的な学習の時間の「先進校」「一般校」をそれぞれ3校程度抽出し、その5年生と担当学年の教員を対象とした。上記とは別に、総合的な学習の時間の趣旨に沿った実践を長年実施し、全国的に高い評価を得ている学校を「トップ校」として12校抽出し、その5年生と担当学年の教員を対象とした。

■ **調査結果** 総合的な学習の時間のトップ校、先進校、一般校の間で有意に差が認められた能力は以下の能力であり、それは、探究的・協同的な学習活動など総合的な学習の時間の趣旨に沿った学習活動を展開することによって形成されることが明らかになった。

ア) 質の高い思考力、情報活用能力(設問9など)

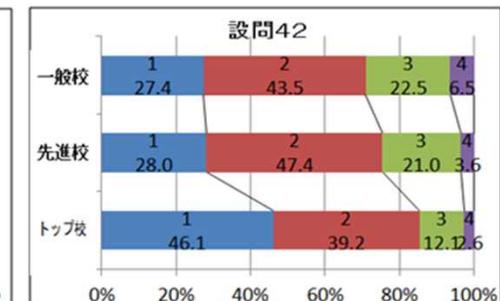
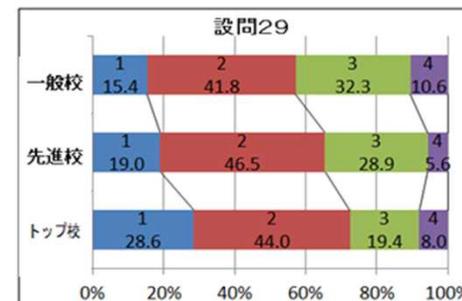
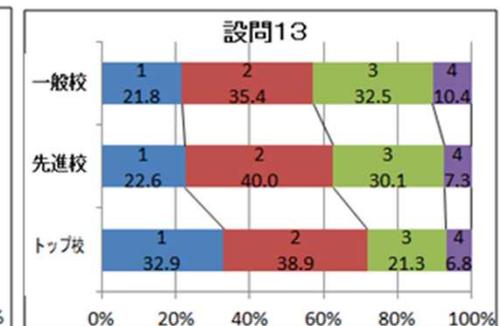
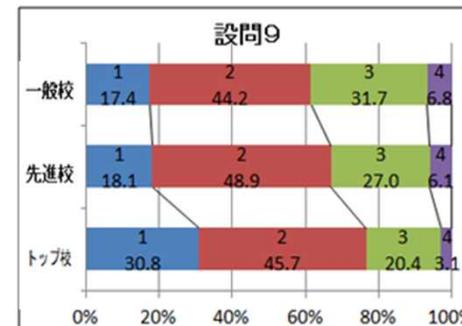
イ) 協同的な問題解決能力(設問13など)

ウ) 地域社会へ貢献しようとする意識(設問29など)

エ) 新しい社会的課題へ挑戦しようとする意欲

(設問42など)

また、トップ校の調査からは、学力・学習状況調査の結果についても、総合的な学習の時間の充実とともに向上してきたことが認められた。



■ **調査目的** 総合的な学習の時間による学習を通して育った生徒の学力を全国的な調査によって把握し、分析することで、その教育的効果を明らかにする。

■ **調査時期** 平成26年2月～3月

■ **調査対象と回答数** 中学校数11校、中学校生徒数1178名、中学校教員数58名校
高等学校数10校、高等学校生徒数1539名、高等学校教員数98名

全国の総合的な学習の時間の趣旨に沿った学習を行っている中学校及び高等学校から抽出した学校は各学校の総合的な学習の時間の終了学年とした。

■ 調査結果

全体を通して、充実した総合的な学習を経験した中学校・高等学校の生徒は、自らの将来展望をしっかりと描き、他者の異なる考え方を受け入れ、課題解決に向けて協同しようとする態度が身に付いてきていることが伺える。

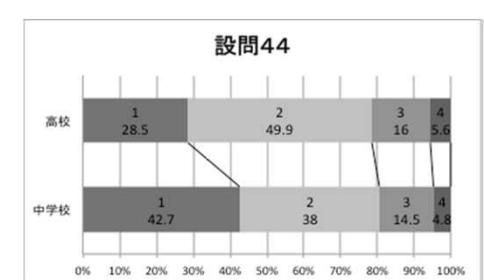
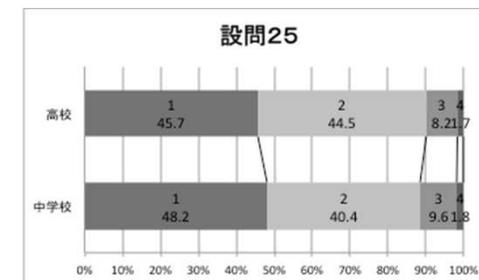
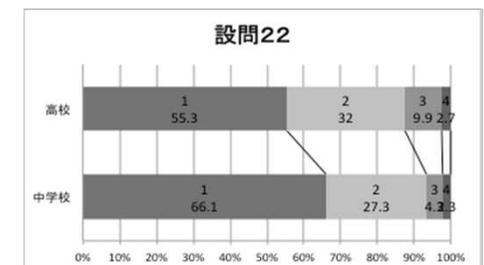
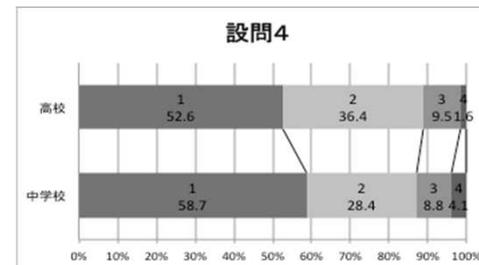
○設問4 「解決したいことを、書籍やインターネット等を使って調べることができる。」

○設問22 「自分の将来について考えることがある。」

○設問25 「異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う。」

○設問44 「総合的な学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。」

など



PISA2012調査報告書(PISA2012 Results:Creative Problem Solving – Students’ Skills in Tracking Real-Life Problems-)より

…日本はPISA2012調査において全ての教科でトップかトップに近い成績を収めているが、問題解決についても例外ではない。…この問題解決のスキルの育成は、教科と総合的な学習の両方において、クロスカリキュラムによる生徒主体の活動に生徒が参加することによって行われているものである。…カリキュラムと授業をより子どもの関心を引く学習に変えようとする日本の継続的な取組は、PISAの良い成績を生み出しただけでなく、2003年から2012年にかけての生徒の学校への帰属意識や学習の姿勢の顕著な改善という結果を生み出している。

OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事(H26.7.2読売新聞、服部真記者)

…学力の回復は総合学習の貢献が大きい。

「中等教育資料」平成26年5月号 OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏寄稿

…日本では、従来から総合学習が行われています。日本の全国学力・学習状況調査によれば、総合学習が子供たちの意欲関心の向上に役立っているなど総合学習の様々な成果がみられたと聞いています。このような子供の自主的な活動に着目した学習の今後の発展を楽しみにしています。

総合的な学習の時間の在り方について(検討素案)

改善の視点

成果

- 総合的な学習の時間への取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている 全国学力・学習状況調査の結果、先進校の取組事例より
- 総合的な学習の時間において育むべき力や学びの在り方をカリキュラム・マネジメントの核としながら、学校全体として探究的な学習を行う実践が進められている。 SGH、研究開発学校等

課題

- **各学校における指導方法の工夫改善や校内体制の整備等による格差解消**
一部の学校(特に中学校・高等学校)においては、「ねらいや育てたい力が不明確で、児童生徒自身が、何のために活動を行い、何を学んだか自覚できていない。」「補充学習のような専ら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備など学校行事と混同された実践が行われたりしている。」といった事例が見られる。
- **総合的な学習の時間のカリキュラムの適切な編成・実施・評価・改善**
地域や生徒の実態等の現状を把握した上で、総合的な学習の時間の目標・内容の設定や、全体計画や年間指導計画の作成に適切に取り組めていない学校がある。また、実施状況の評価を改善に反映できていない学校がある。
- **学習成果の検証と社会的価値の発信**
総合的な学習の時間の重要性は認知されてきているが、そこではぐくまれる資質・能力や態度の具体的な検証や、それらの社会的価値に関する情報発信が不十分である。

◆各学校が総合的な学習の時間を通じて育むべき資質・能力の考え方を明らかにする

- 実社会・実生活の課題を探究的に学ぶことにより、教科等の文脈を越えて自ら課題を発見し解決する力や他者と協働する力などの汎用的な資質・能力を育て、それを実社会で活用できるようにすることを重視
- 主に育成する資質・能力や内容、指導方法の例示の体系化、高度化 の検討
- 育成する資質・能力や態度を支える、教科横断的に考える技法を体系的に指導

◆学校の教育活動全体における総合的な学習の時間の意義を改めて明確化する

- 各教科等を通じて身に付けた力を総合的に活用できるようにし、地域の課題や社会的要請に対応
(国際理解、情報、環境、福祉・健康や防災・安全、地方創生、創造的復興、ESDなど)

検討の方向性(例)

各学校の取組を支援する方策

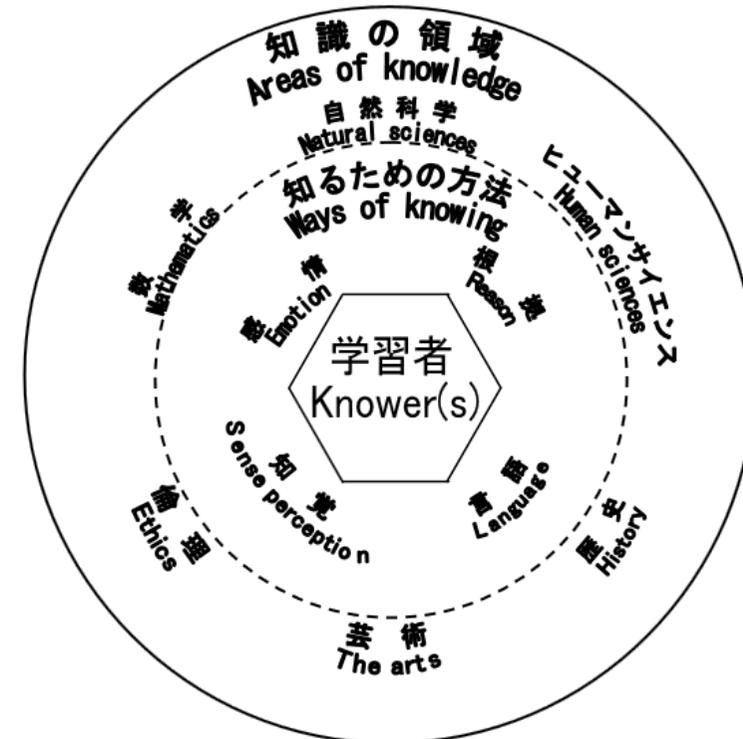
- 指導資料や指導方法に関する好事例の情報発信
- 総合的な学習の時間の推進校や推進地域の指定
- 中高生の社会参画の支援
例: 中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究～未来の主権者育成プログラム～
- 汎用的能力の成果測定及び開発
例: 多様な学習成果の評価手法に関する調査研究、全国学力・学習状況調査等による検証

周知・普及

- 思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実と見通し・振り返り学習活動の徹底
- 研修等の促進
 - ・探究と協同の授業を実現する指導力向上研修
 - ・管理職の意識改革研修
 - ・地域ごとのカリキュラムコーディネーターの配置とその育成 等

TOK (Theory of Knowledge) の学習目標

- ① 知識が示すもの、その前提にあるもの、背後にある意味などを批判的に分析する。
- ② 「学習者」としての生徒自身の経験や「知識の領域 (Areas of knowledge)」、「知るための方法 (Ways of knowing)」などの学習に基づいたKnowledge Issueに関連する質問、説明、推測、仮説、仮説への反論、可能性のある解決法を導き出す。
- ③ Knowledge Issueに対する様々な異なる考え方や認識について理解を示す。
- ④ Knowledge Issueへの様々なアプローチの仕方について関連付けや比較を行う。
- ⑤ Knowledge Issueへの取組に個人的に自覚を持って対応できる能力を身に付ける。
- ⑥ 学問的誠実さ、正確さに十分に配慮をしながらアイデアを練り、他者へはつきりと伝える。



TOKダイアグラム

TOK (Theory of Knowledge) について

DPプログラムを修了するためには、6つのグループ (第1言語、第2言語、個人と社会、実験化学、数学とコンピュータ科学、芸術又は選択科目) を学ぶほかに、必要となる要件の一つ。

学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味して、理性的な考え方と客観的精神を養う。
言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて、偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力を育成する。

ESDとは

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

(日本ユネスコ国際委員会)

国立教育政策研究所が提案する、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例

- ① 批判的に考える力
 - ② 未来像を予測して計画を立てる力
 - ③ 多面的、総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力
 - ⑤ 他社と協力する態度
 - ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 進んで参加する態度
- など

ESD概念図



特別活動

高等学校 特別活動に関する経緯等について

<学習指導要領以前の成り立ち>

- 明治時代後期から、各学校では、修学旅行や運動会などの学校行事が独自に企画され、その教育的な意義が認められていた。また、部活動の設置とともに学校内の自治会的な活動も盛んになっていった。
- 1947年(昭和22年)の学習指導要領試案では、「自由研究」という教科が設置され、通常の教科で学習したことを有機的に発展させて学ぶ時間として想定された。
- この教科「自由研究」が現代の特別活動の原型になったといわれている。しかし、教科「自由研究」については、理解が進まず、また現場における適切な実施も困難であったため、1948年(昭和23年)の学習指導要領の改正時に廃止され、小学校では「教科以外の活動」に、中学校では「特別教育活動」に再編された。

○ 昭和33年改訂(告示)

小学校・中学校・高等学校を通じて「特別教育活動」(「生徒活動」「学校行事」「学級指導」)に名称を統一。(ただし、特別教育活動には、学校行事が含まれていなかった)。

高等学校における「特別教育活動」の目標は「生徒の自発的な活動を通して、個性の伸長を図り、民主的な生活のあり方を身につけさせ、人間としての望ましい態度を養う」と掲げられた。

○ 昭和43～45年改訂

それまで包括されなかった学校行事を統合し、名称を「特別活動」に変更。「クラブ活動」は全員必修。

○ 昭和52年・53年改訂

「勤労にかかわる体験的な学習の機会を出来るだけ取り入れること」が記された。

○ 平成元年改訂

中学校・高等学校は「ホームルーム活動」「生徒会活動」「クラブ活動」「学校行事」に分けられ、「クラブ活動」は部活動による代替が認められるようになった。

○ 平成10年・11年改訂

中学校・高等学校の特別活動から「クラブ活動(部活動)」が削除された。

- 平成20年・21年改訂においては、特別活動で育成したい資質や能力の明示、全体目標に「人間関係」を加えた。また、各活動、学校行事の目標を新たに規定した(よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度を特に重視)

- 加えて、適切な指導計画の作成と資質や能力を育成するための諸活動の充実(生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動の一層の充実、体験活動の推進)を掲げた。

高等学校 特別活動について

目 標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、**集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。**

内 容

ホームルーム活動

目標：**望ましい人間関係の形成**。集団の一員として学校におけるよりよい生活づくりに参画、**諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度の育成。**

内容：学級づくりの活動、コミュニケーション能力の育成、望ましい勤労観、職業観の確立など

生徒会活動

目標：**望ましい人間関係の形成**。協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度の育成。

内容：生徒会の計画や運営、異年齢集団による交流など

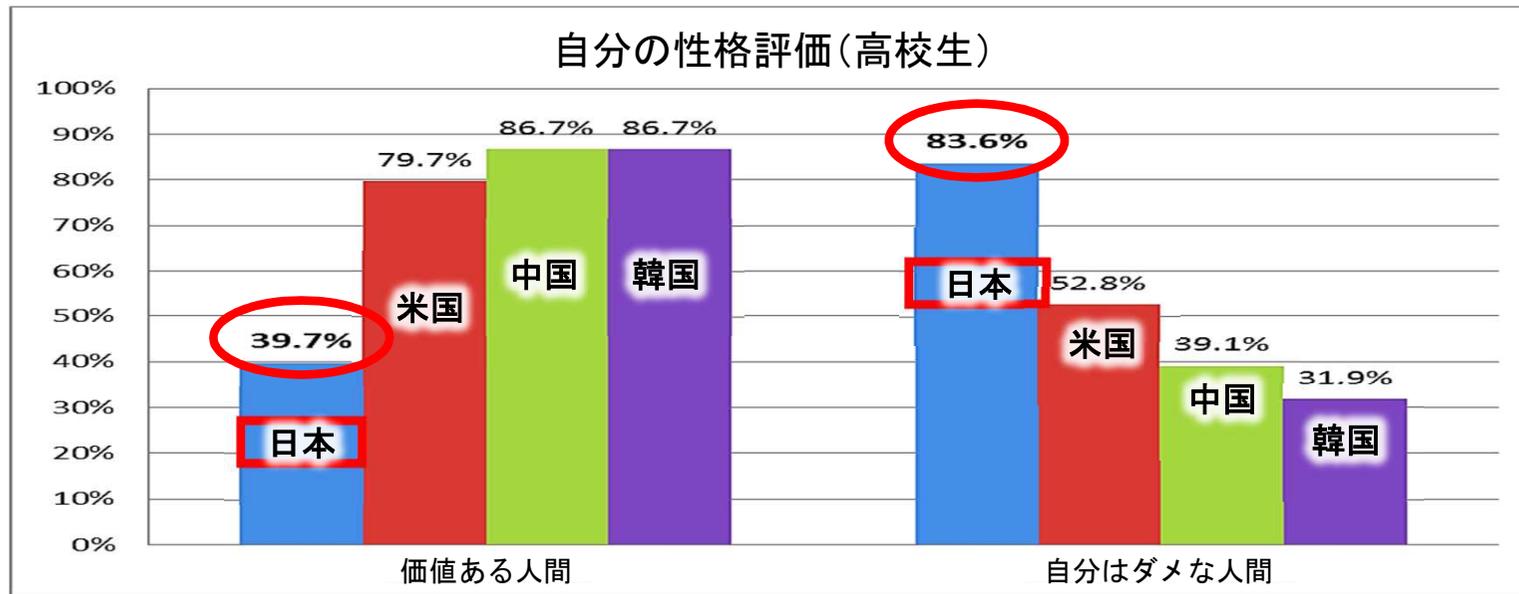
学校行事

目標：**望ましい人間関係の形成**。集団への所属感や連帯感を深め、**公共の精神を養い、よりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度の育成。**

内容：儀式的行事（入学式、卒業式など）、文化的行事（文化祭など）、健康安全・体育的行事（体育祭など）、集団・宿泊的行事（修学旅行など）、勤労生産・奉仕的行事（インターンシップ、ボランティア活動など）

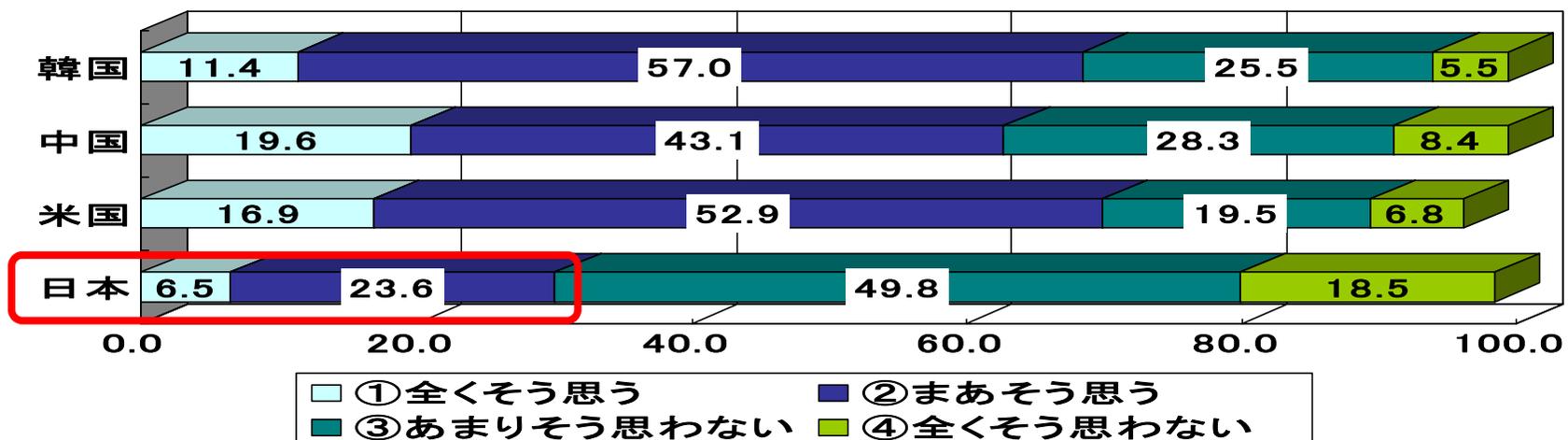
高校生の自己肯定感、社会参画に関する意識

◆米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分を価値ある人間だ」という自尊心を持っている割合が半分以下、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。



(出典)
 (財) 一ツ橋文芸教育振興会、
 (財) 日本青少年研究所
 「高校生の生活意識と留学に関する調査報告書」(2012年4月)より
 文部科学省作成

問:私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない

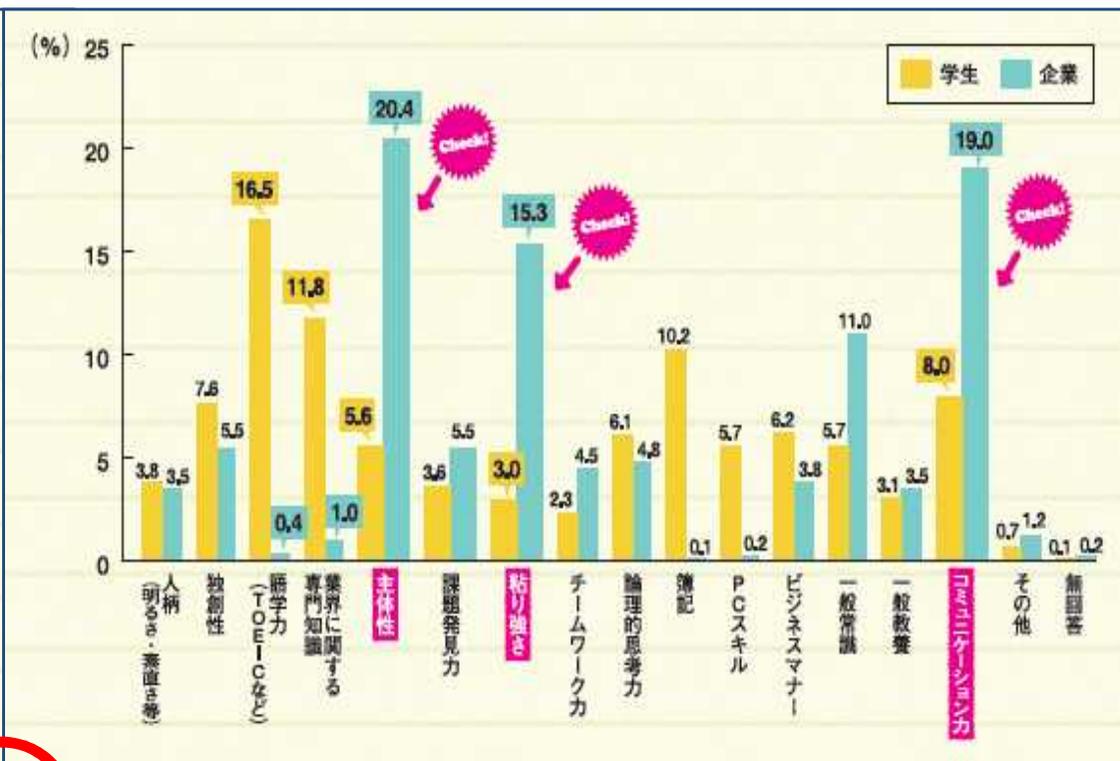
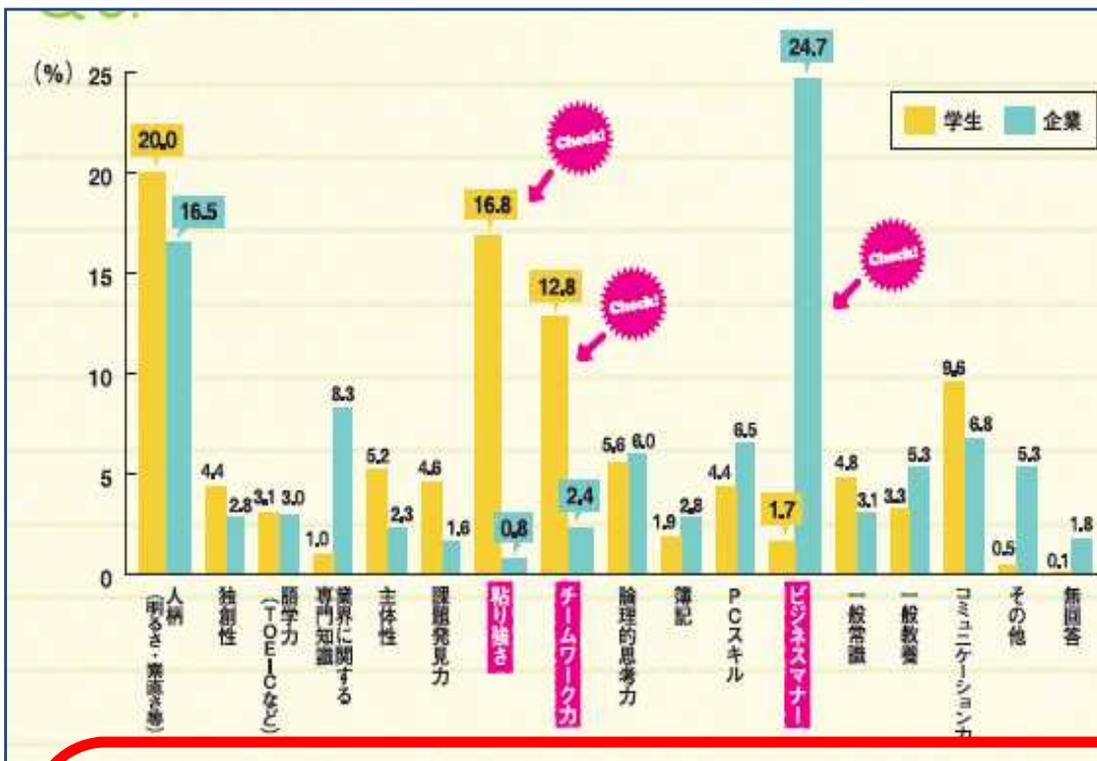


(出典)(財)一ツ橋文芸教育振興協会、(財)日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 -日本・アメリカ・中国・韓国の比較-(2009年2月)」より文部科学省作成

学生と企業の意識のズレに関する現状

Q. 自分が既に身につけていると思う能力は？（对学生）
 学生が既に身につけていると思う能力は？（対企業）

Q. 自分に不足していると思う能力は？（对学生）
 学生に不足していると思う能力は？（対企業）



(経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」平成21年)

粘り強さ

チームワーク力

主体性

コミュニケーション力

(学生の認識)
 「十分出来ている」
 (企業の認識)
 「まだまだ足りない」

ビジネスマナー

語学力

業界の専門知識

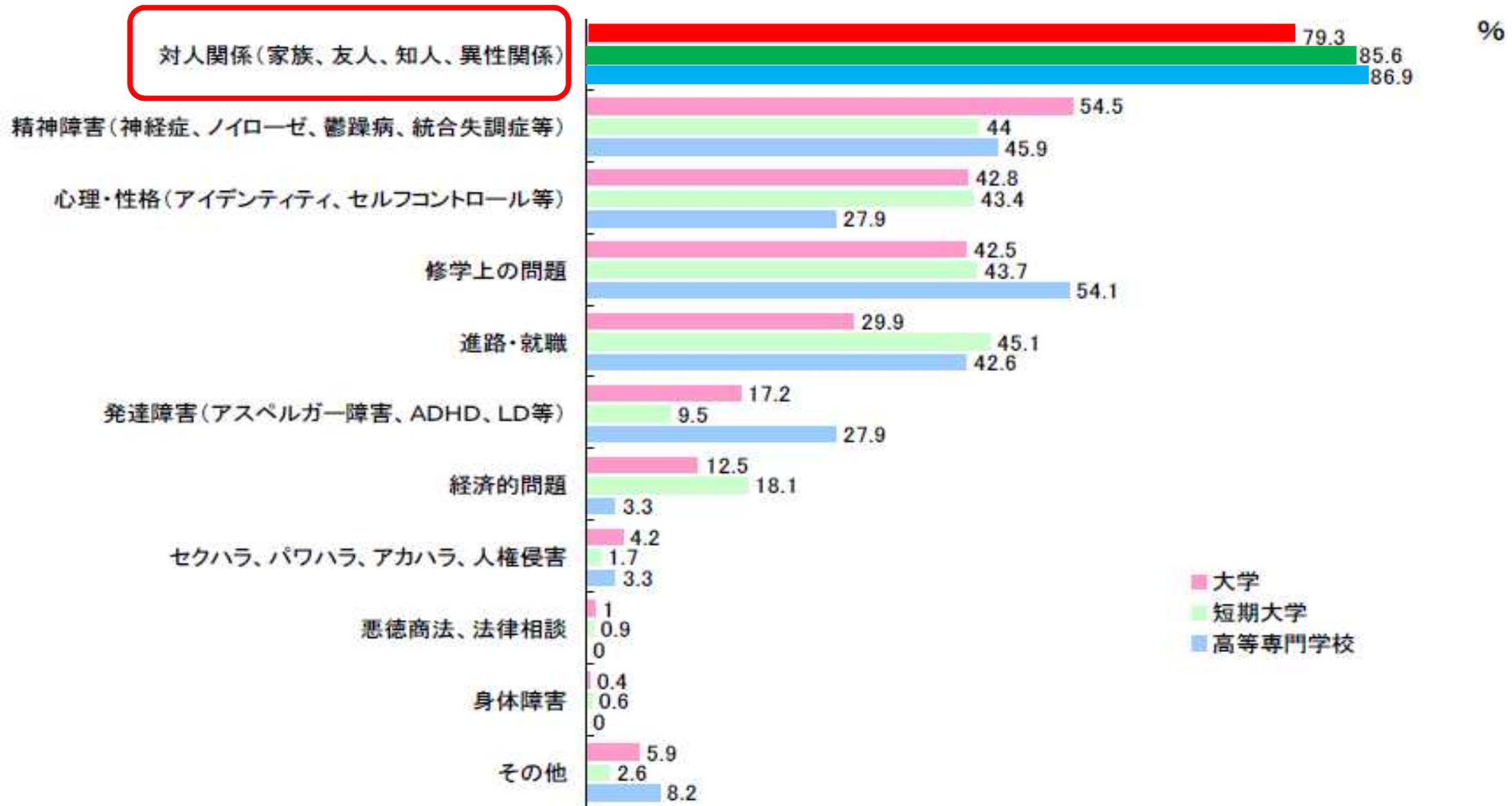
PCスキル

(学生の認識)
 「まだまだ足りない」
 (企業の認識)
 「出来ている (これから
 で良い)」

「チームワーク」「主体性」「コミュニケーション能力」について学生は「十分できている」と考えているが、企業側は「まだまだ足りない」と評価しており、大きなズレがある。

若者の「人間関係」についての現状

大学生などの悩み(学生相談窓口が受け付けた相談内容)



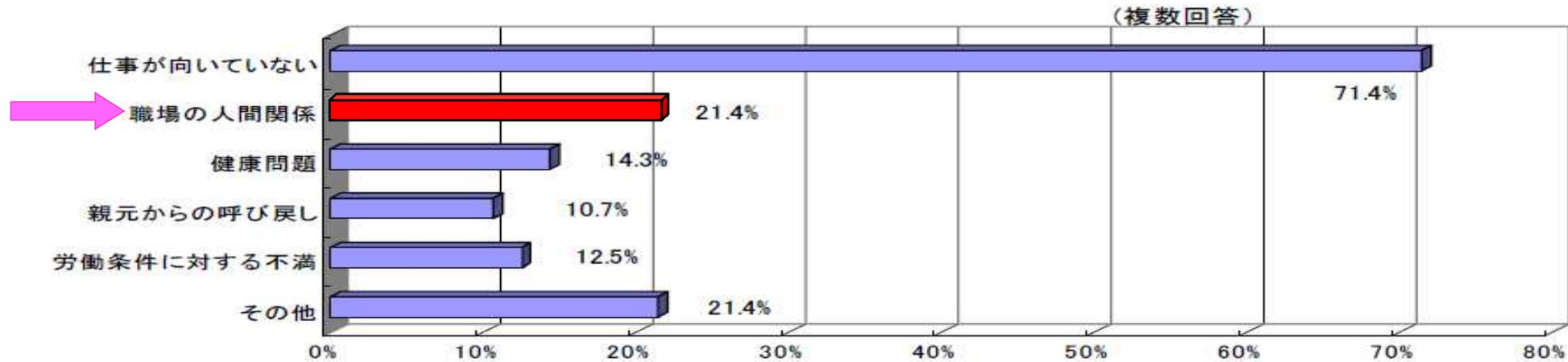
(出典) 日本学生支援機構「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」(平成20年度)

若者の「人間関係」についての現状

新規高卒離職者の離職理由

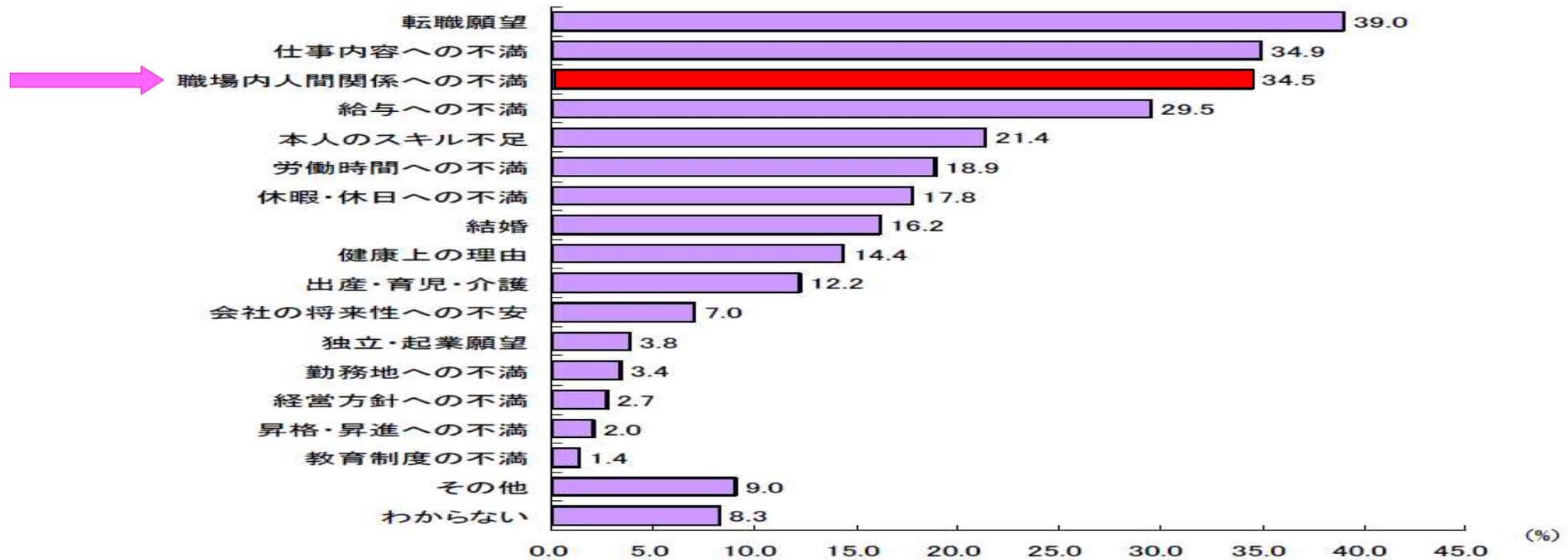
東京経営者協会による調査(平成21年2月)

n=56



企業が考える若年早期離職者の離職理由

三重県商工会議所連合会による調査(平成20年1月)



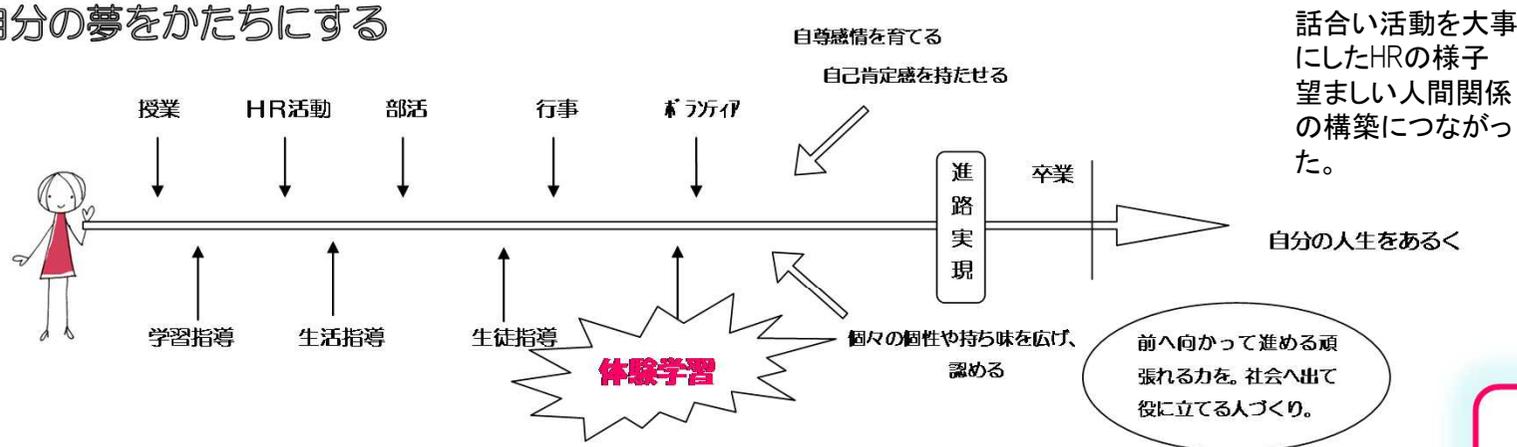
特別活動に関する現状（事例）

事例1 A高等学校

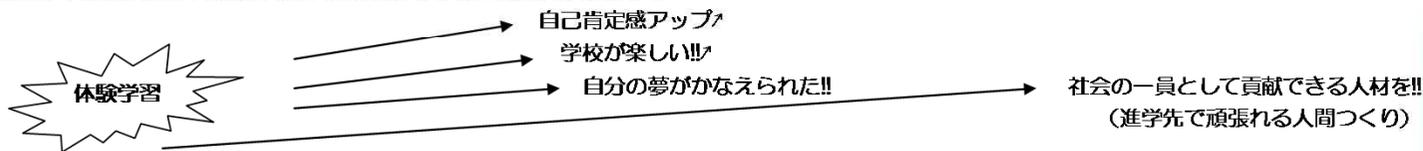
A高等学校は、多様な課題を抱え、成功体験に乏しい生徒の実態から、高校生活に意義を見出せずに転退学する生徒が後を絶たない状況にあった。そういった状況を踏まえ、体験活動を重視し、生徒の自主的・実践的活動を通して、自尊感情を高め、自分のことを好きだと思える「自己肯定感」、学校生活を楽しく過ごす・意義を見出させる「充実感」を目指す特別活動の充実に取り組んだ。また、夢を持たせ、それに向かって前向きに取り組む「将来志向」を高め、社会の一員として貢献できる、社会参画できる人材作り「在り方生き方」の指導計画を体系化して特別活動の研究に当たった。

現在、研究指定の2年目となるが、「自己肯定感」、「充実感」、「将来志向」のいずれについても生徒アンケートの結果、望ましい変容が見られている。また、教職員が「育てたい生徒像」をチームとなって描き、共有、協働することで学校教育全体の改善につながっている。加えて、民間企業や地域などの関係機関との連携も進んでいる。

自分の夢をかたちにする



つまり、この研究は、体験学習を中心としたキャリア教育を手段として・・・



自尊感情を高め、自分のことが好きだと思える
「自己肯定感」

学校生活を楽しく過ごす、意義を見出させる
「充実感」

夢を持たせ、それに向かって前向きに取り組む
「将来志向」

キーワード：自己肯定感（自尊感情UP）、充実感（高校生活における意義）、将来志向（夢をかたちに）

事例1 A高等学校

調査時期

事前アンケート：7月17日

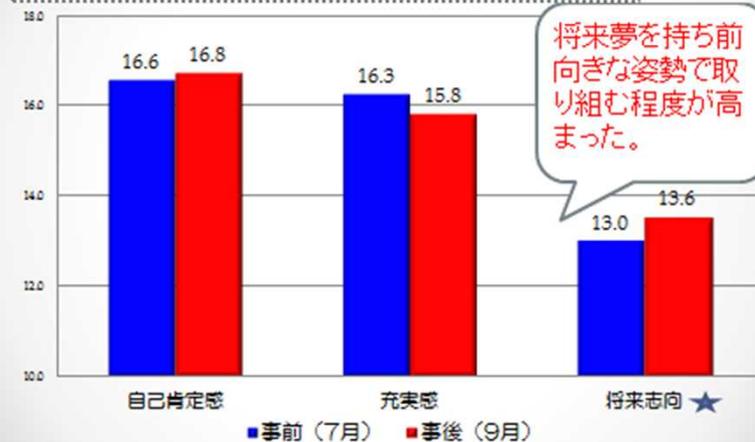
事後アンケート：9月3日

有効回収率

事前アンケート：96.5%

事後アンケート：94.9%

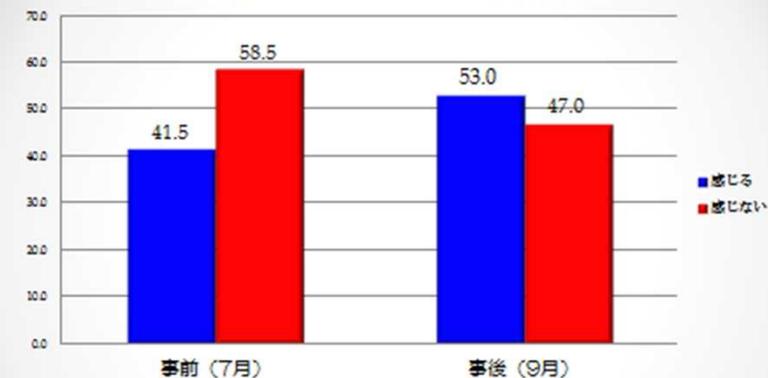
生徒の意識の変化① （自己肯定感・充実感・将来志向）



生徒の意識の変化② （夢の有無、具体的な進路 他）

- ①夢の有無
- ②具体的な進路
- ③学びによる社会と自分とのつながり
- ④情報収集
- ⑤学習の意義の変化

社会とのつながりの変化 ★



「学びによる社会と自分とのつながり」
を感じる生徒の割合 41.5% → 53.0%

特別活動に関する現状（事例）

事例2 B高等学校

B高等学校は、湾まで700M、海拔4.2M、南海地震による襲来する津波は想定5M～10Mという立地にあり、津波から「自分と地域住民の命を守る」という不断の準備が求められる。この状況を受け、生徒会の保健委員会を中核とした「防災・減災プロジェクト」が立ち上がり、地域ボランティア活動に取組んだ。その活動と成果を受けて、学校全体、特に特別活動を中心に防災教育を推進することとなる。

具体的には、防災オリエンテーション(1年)、防災学習日や防災講話の設定、特に防災ホームルームでは1年生が「地震に備えて～自宅での避難行動の確認と防災袋の作成～」、2年生が「地域の高校生として～二次災害に備えよう～」、3年生が「災害発生時に必要とされるもの・ことを考える～高校生として避難生活でできること～」をテーマに話し合い活動を展開し、自らの備えや行動を自己決定、集団決定している。

また、地域の保育園との連携や中学校との合同避難訓練など異年齢集団との取組が生徒の自己有用感を高め、よりより集団づくりへの意欲につなげてもいる。

これらの取組から以下のような生徒の変容を教職員は実感している。

- 受身の活動から主体的・自主的な活動へ
- 自助から共助へ意識が変化
- 自尊感情の高まり(学習以外での自信)
- 小・中学生への指導を通してリーダーとしての自覚の促進
- 内面の変化による学校生活面の改善



高校生による保育園での出前授業



中・高合同避難訓練

全国の成果(学校文化・地域文化の創造に寄与)

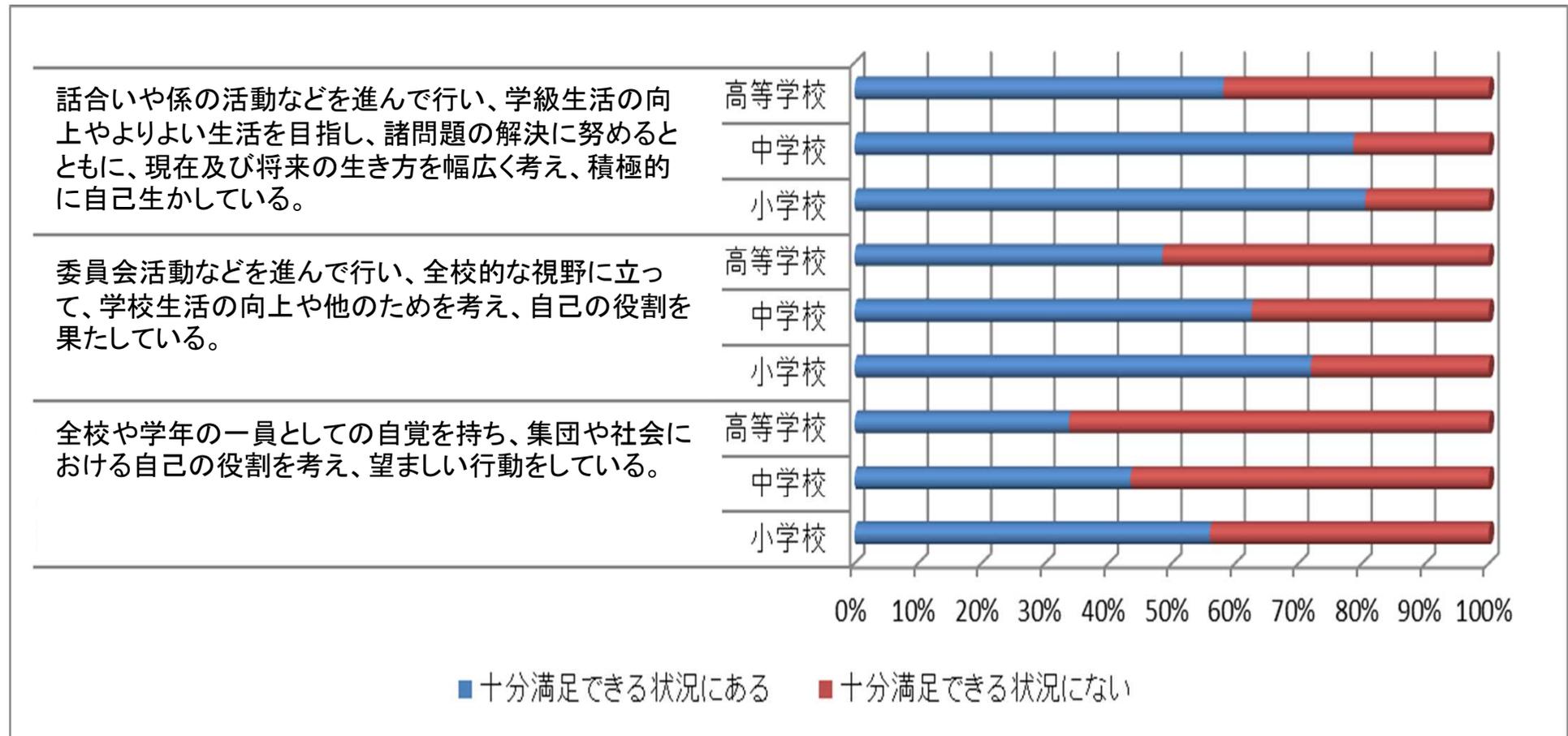
- 学校行事においては、各校において創意工夫に満ちた取組が進められており、「文化祭」、「体育祭」、「修学旅行」やボランティア活動などでは学校独自の文化を創り出している。その基盤には生徒会の協力など、生徒の声を生かした学校行事の運営がある。また、地域や学校間の連携により地域文化の創造に寄与している学校行事も多い。
- 生徒会活動においては、多くの学校で生徒が自治を実感し、社会参画を学ぶ絶好の機会となっている。
- ホームルーム活動では、学校行事や生徒会活動と結びつけながらよりよいクラスづくりや人間関係の形成に大きな成果が見られるとともに、在り方・生き方を考える「進路指導」の核として多くの学校では活かされている。

特別活動の実施状況

学年別の実施状況（平成16年度特別活動実施状況調査）

校種	学級活動・ホームルーム年間実施時数
小学校(第5学年)	38.8
中学校(第1学年)	41.2
高等学校(第1学年)	33.7

小中学校との比較で見ると、ホーム
ルーム実施時数や特別活動の目標到
達度には課題がある



特別活動に関する現状・課題に関するデータ①

高校普通科のキャリア教育における変容調査より

○ 社会が求める力(基礎的・汎用的能力)の変容

ホームルーム活動における在り方生き方を考えさせる時数の多寡が基礎的・汎用的能力の変容に大きな影響を与える。

図表 3-4-4 時間の多寡と人間関係形成・社会形成能力



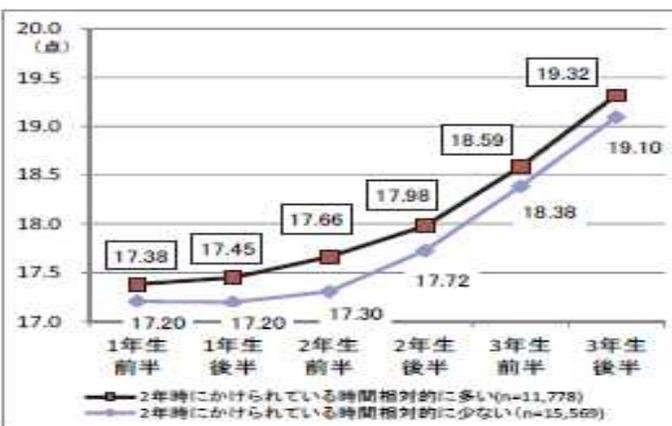
図表 3-4-5 時間の多寡と自己理解・自己管理能力



図表 3-4-6 時間の多寡と課題対応能力



図表 3-4-7 時間の多寡とキャリアプランニング能力



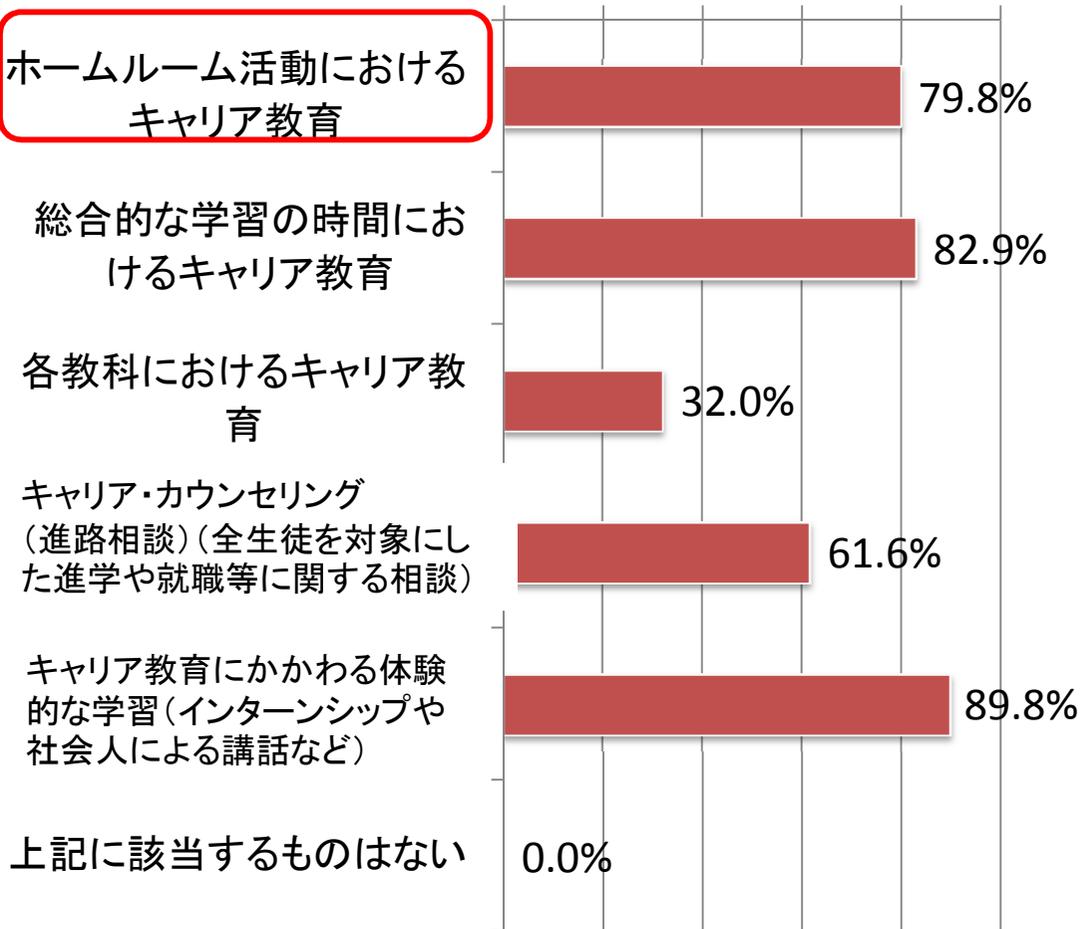
平成24年~26年 児童生徒課「高校普通科における変容調査」普通科高校生延べ4万人を追跡調査

特別活動に関する現状・課題に関するデータ②

キャリア教育・進路指導に関する総合的な実態調査より

○ キャリア教育・進路指導に充てられる時間
在り方生き方を考える進路指導においてホーム
ルームは核となっている。

0.0%20.0%40.0%60.0%80.0%100.0%



○ ホームルーム担任の意識と学習意欲
担任が課題対応能力やキャリアプランニング能力に重点を置きながらホームルーム活動を指導することにより、生徒の学習意欲の喚起に結びつく。

	モデル1		モデル2		モデル3	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
(切片)	-2.482	0.084 ***	-5.564	0.004 ***	-6.322	0.002 ***
学科<普通科>						
専門学科	0.137	1.147	0.075	1.078	0.134	1.143
総合学科	-0.150	0.861	-0.127	0.881	-0.126	0.881
計画を立てる上で重視したことから						
生徒の実態や学校の特色、地域の実態を把握し計画に反映させること	-0.101	0.903	-0.109	0.897	-0.135	0.873
生徒が、学年末や卒業時まで「〇〇ができるようになる」など、具体的な目標を立てること	0.009	1.009	-0.002	0.998	-0.031	0.970
発達段階に応じたキャリア教育の実践が行われるようにすること	0.183	1.201	0.145	1.156	0.134	1.143
貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること	0.372	1.451 **	0.361	1.435 **	0.351	1.421 *
様々な教科や領域・行事等、教育課程全体を通じたキャリア教育が行われるようにすること	0.198	1.219	0.177	1.193	0.152	1.164
現在の学びと将来の進路との関連を生徒に意識づけること	0.440	1.552 **	0.410	1.507 **	0.390	1.478 *
取組の改善につながる評価を実施すること	0.293	1.341 †	0.274	1.315 †	0.275	1.317 †
就業体験(インターンシップ)や社会人による講話など、職業や就労にかかわる体験活動を充実させること	0.060	1.062	0.035	1.035	0.060	1.062
大学等の体験入学や学校紹介など、上級学校にかかわる体験活動を取り入れること	0.306	1.358 †	0.264	1.303 †	0.235	1.264
就業体験(インターンシップ)などの体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること	-0.060	0.942	0.029	1.029	0.014	1.014
保護者や地域、外部団体との連携を図ること	-0.179	0.836	-0.173	0.841	-0.188	0.829
個人資料に基づき生徒理解を深めることや生徒に正しい自己理解を得させること	0.291	1.338 *	0.273	1.314 *	0.252	1.287 †
生徒に進路に関する情報を得させる活動を取り入れること	0.003	1.003	0.021	1.021	-0.003	0.997
キャリア・カウンセリング(進路相談)を取り入れること	0.074	1.076	0.067	1.070	0.089	1.093
具体的な進路(就職先や進学先等)の選択や決定に関する指導・援助を行うこと	0.217	1.242	0.232	1.262	0.243	1.275
卒業生への進路指導を行うこと	-0.316	0.729	-0.290	0.748	-0.293	0.746
ホームルームで担任が重点をおいている指導*						
人間関係形成・社会形成能力			-0.010	0.990	-0.008	0.992
自己理解・自己管理能力			0.036	1.036	0.040	1.041
課題対応能力			0.122	1.130 **	0.123	1.131 *
キャリアプランニング能力			0.163	1.177 **	0.164	1.178 **
上級学校や職場に関すること			0.014	1.015	0.012	1.012
「基礎的・汎用的能力」に関する指導内容・実施学年						
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導・1年					0.528	1.695 †
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導・2年					-0.161	0.851
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導・3年					-0.290	0.748
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導・1年					0.114	1.121
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導・2年					0.036	1.037
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導・3年					0.132	1.141
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導・1年					-0.063	0.939
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導・2年					0.312	1.366 †
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導・3年					-0.059	0.942
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導・1年					0.032	1.032
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導・2年					0.433	1.542 *
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導・3年					-0.133	0.875
サンプル数	1890		1890		1890	
-2 Log Likelihood	1845.446		1792.454		1772.821	
χ ²	78.244		131.865		151.499	
Cox-Snell R ²	0.041		0.077		0.077	
Nagelkerke Pseudo R ²	0.064		0.106		0.121	

注：***,p<.001, **,p<.01, *,p<.05, †,p<.10。()内はリファレンス・グループを示す。

※：担任調査の問「あなたのホームルームでキャリア教育を行う上で、特にどのようなことに重点をおいて指導していますか」と尋ねた15項目を、基礎的・汎用的能力として整理されている「人間関係形成・社会形成能力(項目(1)~(3))」「自己理解・自己管理能力(項目(4)~(6))」「課題対応能力(項目(7)~(9))」「キャリアプランニング能力(項目(10)~(12))」および「上級学校や職場に関すること(項目(13)~(15))」の5つのカテゴリーに分類した。

特別活動に関する現状・課題に関するデータ③

学校教育の評価と人材育成の課題より

区分	項目	小学校	中学校	高校	大学	企業
		意識して教育している比率				
規律	社会のルールや人との約束を守る	95.7%	91.9%	89.7%	78.5%	6.1%
意欲	学ぶごとに対して意欲的である	95.7%	88.7%	85.3%	77.6%	8.5%
	将来働くことに対して意欲・関心を持っている	80.4%	96.8%	94.1%	85.0%	11.0%
	将来の夢や目標を持っている	89.1%	93.5%	88.2%	80.4%	18.3%
	社会や地域で起こっていることについて関心を持っている	69.6%	79.0%	63.2%	72.1%	24.4%
基本行動	物事に進んで取り組む	95.7%	91.9%	82.4%	79.8%	19.5%
	目的を設定し確実に実行する	87.0%	90.3%	85.3%	80.4%	19.5%
	自分なりに考える	93.5%	82.3%	80.9%	78.5%	---
	自分の意見を分かり易く伝える	95.7%	91.9%	77.9%	84.7%	15.9%
	相手の話を丁寧に聞く	95.7%	88.7%	82.4%	75.2%	11.0%
チーム行動	他人に働きかけ卷込む	63.0%	67.7%	38.2%	57.7%	45.1%
	意見の違いや立場の違いを理解する	89.1%	82.3%	75.0%	67.5%	17.1%
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する	60.9%	66.1%	61.8%	65.0%	17.1%
プロセスデザイン	現状を分析し目的や課題を明らかにする	71.7%	79.0%	60.3%	77.6%	34.1%
	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する	71.7%	74.2%	55.9%	74.2%	42.7%
その他	ストレスの発生源に対応する	39.1%	54.8%	32.4%	44.2%	31.7%

学校教育が再確認すべきは、「チーム行動する力」や「自らシナリオを描く経験」、また「社会や地域に関心を向ける機会」が極めて重要であること。⇒ 特別活動の重要性

特別活動の在り方について（検討素案）

<現状>

- 体育祭をはじめとする学校行事が、各地で学校文化・地域文化の創造に結びついている
- よりよい人間関係を築くこと、自己を生かす能力を養うことの必要性は今後ますます高まると思われる

<課題として考えられる点>

● ホームルーム活動

授業実施時数については改善傾向にあるものの課題の範囲は脱していない。
(参考:実施時数)また、合意形成にむけた話し合い活動が日常化されていない課題も残る。

● 生徒会活動

生徒会活動の正しい理解が生徒のみならず教員においても十分でない場合がある。
(生徒会とは生徒会役員の活動のことであるという誤解)

● 学校行事

生徒の意欲を尊重しすぎたり、伝統の継承や発展に重きを置きすぎたりするあまり、学校行事が生徒にとって過重負担になっている場合がある。

- 二つの活動と学校行事が、学校全体の取組とならず、担当者任せになっていないか点検の必要がある。

◆特別活動で身につけさせたい資質・能力の明確化

- 特別活動において身に付けさせたい、現在及び将来の生活につながる資質・能力を再確認する。
- 積極的な社会参画につながる合意形成にむけた活動(話し合い活動など)の重要性を確認する。

◆教育課程全体における特別活動の意義の明確化

※公民科における新科目の在り方との連携も必要

- 特別活動を通じた、望ましい学級集団の形成が、教育課程全体における「主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)」を推進する基礎を作るものであることの強調
- 各教科で学んだことを、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を通じて、自分自身や学級の実生活に直結させる場であることの強調 (例:ボランティア、防災の実践等)
- 特別活動の目標や成果から学校全体、特に教務部が関わり指導体制を確立することの重要性を明確化